



地域資源の継承と持続可能な コミュニティのデザイン研究



地域固有の魅力や可視化あるいは交流につなげるためのワークショップや、コミュニケーションデザインの制作、または持続可能なコミュニティのための課題解決につながるデザインの研究をしています。

KEYWORDS 地域資源の発見と活用、まちの記憶の記録と共有、地域コミュニティデザイン

RESEARCHER

デザイン学部 教授 酒百宏一



主な学会発表・論文・著書・社会活動

- [1] オオタノカケラ(科研費助成事業:地域資源を活かした地域振興プロジェクト)(2013~)
- [2] 大田区六郷地域住民との地域資源活用と交流促進活動(六郷のタカラ探検隊。)(2015~)
- [3] 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ(2006~2018)
- [4] 開港都市にいかた 水と土の芸術祭(2009~2012)
- [5] 町の記憶PROJECT 南千住10000枚の記憶(2010~2013)
- [6] 木のアートプロジェクト 於浜田市世界子ども美術館(2019)
- [7] まいでい 花 プロジェクト(NPOふくしま再生の会主催)(2021~)

01 | アート協働制作による地域コミュニティでの活動

色鉛筆等の画材に対象物を紙に写しとる作品づくりを通して、子どもからお年寄りまでが参加可能なワークショップを実施。見過ごしてきたものや失われるものを参加者と共に共有し、地域の魅力を浮かび上げらせ、記憶の記録や可視化することでさまざまなたちでの交流活動に展開させていく。

(事例として大田区と町工場、飯館村と花、十日町市と葉っぱ、新潟市と農具、南千住と町の記憶、浜田市と木、台北と蝶、宇部市と商店街など)



02 | 地域交流活動を推進するコミュニケーションのデザイン

コミュニティに住む個人が自らの土地を知り、コミュニティの魅力や再発見するという個人が獲得した学びを地域に対していかにひらいていくかということに焦点を置き、展示されたものから自分を重ねることで、学びを共有し、また学びがつながるといった「地域をひらく」ワークショップやプレゼンテーションの手法の研究。(実績として大田区地域力推進課生涯学習担当地域学講座、六郷のタカラ展)

